

韓国、シンガポール、ドイツが世界のロボット競争をリード

- 国際ロボット連盟がロボット密度統計を発表

2024年1月10日 フランクフルト – **2022年、産業用ロボットの大量設置が進んだことを原動力として、世界の稼働ロボット台数は過去最高の390万台を記録した。国際ロボット連盟（IFR）が発表した「World Robotics 2023」レポートによると、ロボット密度ベースでの自動化大国のトップ3は、韓国（従業員1万人当たり1,012台）、シンガポール（同730台）、ドイツ（同415台）となっている。**

国際ロボット連盟の会長であるマリーナ・ビル氏は次のように述べている。「ロボット密度のデータによって地域別や国別の比較が可能になり、世界の自動化状況が明らかになります。世界中の工場で、目覚ましいスピードでロボット導入が進んでいます。関連の最新統計によれば、ロボット密度の世界平均は従業員1万人当たり151台と過去最高に達し、わずか6年前の統計から2倍以上の伸びを記録しています。」

地域別ロボット密度

アジアの製造業のロボット密度は従業員1万人当たり168台。世界的に見ても韓国、シンガポール、日本、中国、香港、台湾などのアジア諸国はすべて自動化ランキングでトップ10入りしている。欧州連合のロボット密度は従業員1万人当たり208台で、ドイツ、スウェーデン、スイスが世界上位10以内にランクイン。北米のロボット密度は従業員1人当たり188台。製造業の自動化ランキングでは、米国がトップ10に入っている。

ランキング上位国

韓国は産業用ロボットの導入が世界で最も進んだ国である。2017年以降、ロボット密度は年平均6%のペースで上昇している。韓国経済は強力な電子産業と独自の自動車産業という、産業需要の2大要因に支えられている。

シンガポールが第2位で、ロボット密度は従業員1万人当たり730台。シンガポールは小国で、製造業の労働人口も非常に少ない。

ドイツ（従業員1万人当たり415台）が第3位を占める。欧州最大の経済大国ドイツのロボット密度は、2017年以降、年平均成長率（CAGR）にして5%のペースで伸びている。

日本は第4位（同397台）。世界有数のロボット生産国である日本のロボット密度は、年平均7%成長した（2017～2022年）。

中国は2021年に第5位に浮上し、2022年もその順位を維持した。自動化テクノロジーに対する同国の大規模な投資が実を結び、およそ3,800万人という潤沢な製造業就労者数にもかかわらず、従業員1万人当たり392台という高いロボット密度を達成した。

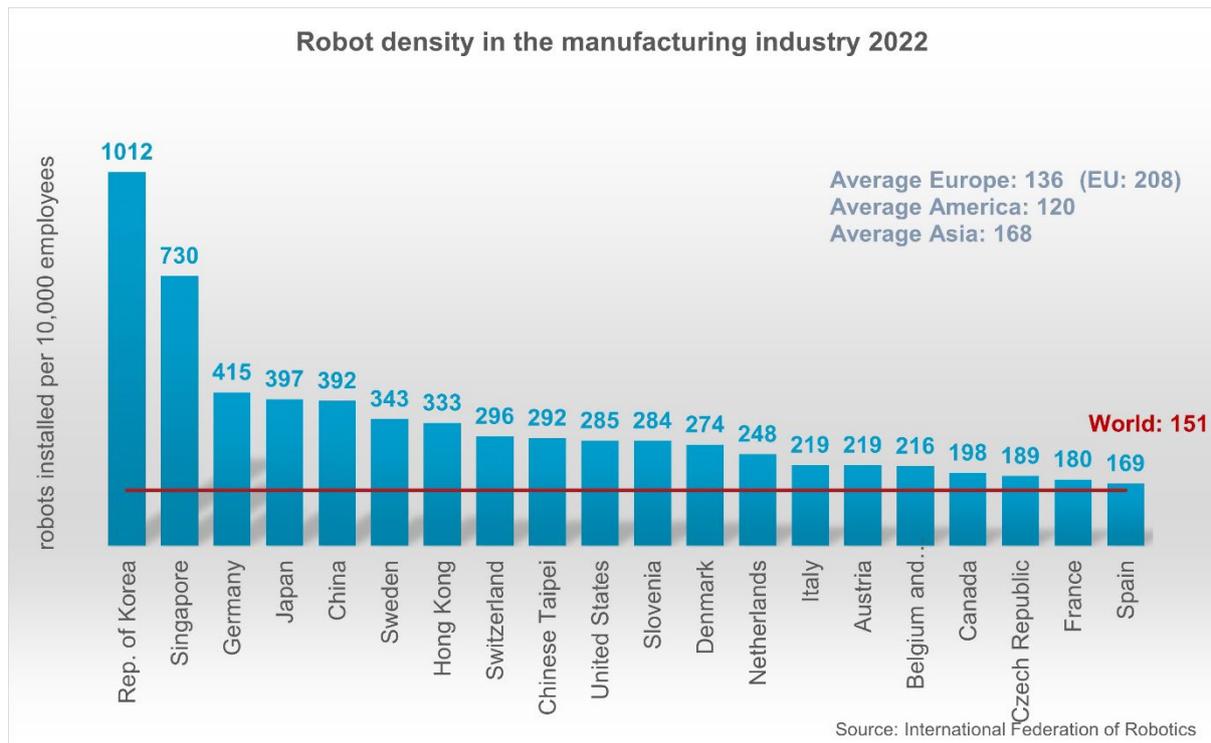
米国のロボット密度は、2021年の274台から2022年の285台に増加した。世界ランキングは第10位。

Downloads

<https://ifr.org/ifr-press-releases/news/global-robotics-race-korea-singapore-and-germany-in-the-lead>

動画

FACTS about Robots – the Global Automation Race in Numbers: (ロボットの統計 — 数字で見る世界の自動化競争) <https://www.youtube.com/watch?v=mtxMYJz4v2Y>



ロボット密度について

ロボット密度は従業員数に対する産業ロボットの稼働台数を表す。これによって、製造業全体または特定の産業部門を対象にした測定が可能となる。従業員数は経済規模の尺度になるため、従業員数を稼働台数で割ることにより、同一基準で稼働台数を比較できる。

動画

数字で見るロボット業界 — 世界の自動化競争に関する統計

<https://www.youtube.com/watch?v=mtxMYJz4v2Y>

報道関係者向けお問い合わせ窓口

国際ロボット連盟

プレスオフィサー

Carsten Heer

電話： +49 (0) 40 822 44 284

E-Mail： press@ifr.org